

第6学年 社会科学習指導案

い組 男子20名 女子18名 計38名
指 導 者 藤 崎 智 大

1 小単元 藤原道長と貴族の生活

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、歴史的事象とかかわりの深い人物の思いや願いを考えながら、大陸文化の摂取や大化の改新、大仏造営について追究することを通して、天皇を中心とした新しい国づくりを目ざして政治の仕組みが確立されていったことをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、その後の時代の様子や人々の暮らしについて関心をもち始めている。

そこで、本小単元では、藤原道長を中心とした貴族の政治や暮らしを追究する活動を通して、藤原氏を中心とした一部の貴族が栄え、華やかな貴族の暮らしの中で日本風の文化が発達したことをとらえさせようとするものである。また、具体的な観点に基づいて、年表や絵図、文化財などの資料を活用して調べたり、貴族の政治や暮らし、文化の特色について考えたりしたことを表現することができるようにするものである。さらには、貴族の暮らしや文化について関心をもち、我が国の歴史や伝統を大切にしようとする態度を育てようとするものである。

このような学習は、武士による政治の仕組みや暮らしについて追究する学習へ発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

平安時代中期は、藤原道長をはじめとする藤原氏が、天皇と婚姻関係を結び、朝廷内の重要な官位を独占し、政治の実権が天皇から貴族へ移行した時代である。この頃、藤原氏を中心とした一部の有力な貴族たちは、大きな屋敷に住み、年中行事を行なうなど、華やかな暮らしを送っていた。このような貴族の暮らしの中で、寝殿造と呼ばれる建築様式、東帯や十二単といった服装、かな文字が生み出されたりするなど、中国文化の影響を受けながらも、これまでとは違う独自の日本風の文化が生まれた。その中には、源氏物語や枕草子といった優れた文学作品や七夕等の年中行事、国宝に指定されている平等院鳳凰堂など、今に受け継がれているものが数多くある。

そこで、ここでは、藤原氏を中心とした一部の貴族が権力を握り、その貴族の華やかな暮らしの中で、これまでの中国文化の影響を受けながら、独自の日本風の文化が発達したことを具体的な事象を基に追究させていく。そのために、藤原道長を中心に扱い、藤原氏の政治や貴族の暮らしの様子、当時の文化について追究させるようにする。

そのために、まず、都の貴族のやしきの様子の絵図や藤原道長が詠んだ歌を基に、気付いたことを話し合わせる活動を通して、「藤原道長はどのようにして大きな力を得たのだろうか。貴族はどのような暮らしをしていたのだろうか。」という問題意識をもたせるようにする。次に、一人一人の予想を基に、「藤原道長の政治」「貴族の暮らし」「この時代の文化」の観点から追究計画を立て、絵図や年表、写真資料などを活用したりすることを通して、追究させ、調べたことを基に、グループや全体で話し合わせていく。その際、「藤原道長の政治」については、天皇と婚姻関係を結んだことを関連付けて藤原氏が勢力を拡大した理由を考えたり、「貴族の暮らし」については、貴族の暮らしと庶民の暮らしの様子を比較させることで、特色を考えさせたりする。また、「この時代の文化」については、文学や絵画、建造物を基に文化の特色について考えさせるとともに、現在まで受け継がれているものがあることをとらえさせ、自分たちの生活とのつながりを考えさせる。さらに、学習して分かったことや考えたことを絵図や文にまとめさせることで、貴族の政治や暮らし、文化について、整理、再構成させるとともに、自分の興味がある平安時代の年中行事や重要文化財、文学作品などについて個人追究させることで、日本風の文化についての見方・考え方を深めていくことができるようにする。

このような学習を通して、貴族の政治や暮らし、文化について追究することの楽しさを味わいながら、社会的事象の特色、相互の関連、意味を考える力を高め、先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心をもち、わが国の歴史や伝統を大切にしていこうとする態度を養うことになる。

(3) 子どもの実態(調査人数38人, 質問紙法, ウェブリング図, 重複回答, 主な項のみ記述)

項目1	平安時代の人物と業績 ※複数回答
	藤原道長(25), 紫式部(20), 清少納言(12), 藤原頼道(9), 平清盛(8) 紀貫之(4),
項目2	貴族について ※複数回答
	えらい人(30) お金持ち(28) 権力がある(12) 豪華な暮らしをしていた(20)
項目3	平安時代のもので現代に伝わるもの ※複数回答
	分からない(24) 着物(12) 行事(2)
項目4	平安時代のことで学習したいこと ※複数回答
	人々の暮らし(30) 世の中の様子(22) 文化(12)
項目5	資料活用の技能について
(1)	1つの絵図からの読み取り ○必要な情報の読み取り(35) ○全体的な傾向の読み取り(30)
(2)	2つの絵図からの読み取り ○相違点(38) ○類似点(28) ○読み取ったことにつながり(8)
項目6	社会的な思考・判断・表現について(主に思考方法)
(1)	事実を比較して考える(35)
(2)	事実同士を関連付けて考える(28)
(3)	複数の事実を総合的に考える(34)

この学級の子どもたちの、平安時代における見方や考え方は次の通りである。

子どもたちの多くは、平安時代の代表的な人物として、藤原道長や紫式部などを挙げているが、その人物の業績やその背景については、とらえられていない(項目1)。また、貴族については、抽象的にはとらえているが、具体的な事実を基にとらえることとはできていない(項目2)。現代に残る平安時代の行事や遊びについては、とらえられていない(項目3)。これは、日常の中で各行事の起源についてとらえる機会が少ないからだと考える。平安時代については、世の中の様子や人々の暮らしについて関心をもつ子どもが多い(項目4)。これは、これまでの歴史学習で各時代の世の中の様子や人々の暮らしを中心に学習してきたからだと考える。資料活用の技能については、絵図や年表をなどの各種資料を活用して学習してきた経験から、身に付きつつある(項目5)。社会的な思考・

判断・表現については、多くの子どもが、事象同士を比較しての社会的事象の特色をとらえることはできるが、社会的な事象同士を関連付けて考えたり、総合的に考えたりすることについては十分に身に付いているとは言えない(項目6)。これは、これまでの学習で社会的な事象の特色、相互の関連、意味について考える学習を経験してきてはいないが、子ども自身が活用した思考方法を意識していなからだと考える(項目7)。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のことを留意したい。

単元の追究過程においては、藤原道長を中心に切り上げ、「藤原道長の政治」「貴族の暮らし」「この時代の文化」という柱で、貴族の政治や暮らし、文化について追究させていく。その際、年表や絵図、写真などを活用しながら調べ、貴族の政治や暮らし、文化の特色について考えることができるようにするとともに、当時の文化が、現在まで受け継がれていることに気付かせることで、現在の自分たちの生活とのかかわりを考えさせながら追究させるようにしていきたい。

ア まず、都の貴族のやしきの様子の絵図を提示し、建物のつくりや大きさ、人々の様子を読み取らせたり、藤原道長が詠んだ歌から道長の思いや考えを想像したりして、藤原道長はどのようにして大きな力を得たのだろうか、貴族はどのような暮らしをしていたのだろうかという問題意識をもたせ、単元の学習問題を設定させたい。そして、学習問題に対する一人一人の予想を話し合いながら、追究計画を立たせたい。

イ 追究過程では、年表や絵図、写真資料を活用して、調べた事実を基に、貴族の政治や暮らし、文化について考えたことを全体で話し合わせることで、学び合う楽しさを味わわせたい。その際、藤原道長の政治についての過程では、藤原氏が勢力を拡大した理由を天皇と藤原氏の系図を関連付けて考えさせることで、藤原道長が天皇家と親戚関係を築き、政治の実権を握ったことをとらえられるようにする。「貴族の暮らし」についての追究過程では、住居や服装、一日の生活について、絵図や写真を基に調べたことを、庶民の暮らしと比較させながら、貴族の暮らしの特色について、とらえられるようにする。「この時代の文化」についての追究過程では、かな文字の誕生によって優れた文学作品が生まれたことや、自然や当時の様子を描いた大和絵、国宝にも指定されている平等院鳳凰堂といった建造物のつくりを基に、文化の特色について考えさせ、貴族を中心に独自の日本風の文化が発達したことをとらえさせたい。また、貴族の暮らしや文化については、現在まで受け継がれているもののあることをとらえさせ、自分たちの生活とのかかわりがあることに気付かせるようにする。

ウ 追究した結果、平安時代の特色について分かったことや考えたことを歴史新聞にまとめさせたり、自分の興味がある年中行事や重要文化財、文学作品などについて個人追究させたりすることで、日本風の文化についての見方・考え方を深めていくことができるようにするとともに、今も受け継がれる平安時代の文化について大切にしていきたいという態度を養いたい。

3 目標

- (1) 貴族の政治やくらし、当時の文化について関心をもち、意欲的に追究しようとするができる。
- (2) 藤原氏が権力をもつようになった理由を朝廷との結びつきと関連付けて考えたり、具体的事象から貴族のくらしや当時の文化の特色を考えたりしたことを説明することができる。
- (3) 年表や絵図などの資料を活用し、貴族の政治やくらしについて必要な情報を読み取ったことを、文や絵図にまとめ整理することができる。
- (4) 平安の都における貴族中心の政治やくらしの様子を理解するとともに、その中から、貴族を中心とした日本独自の文化が生み出されたことを理解することができる。

4 指導計画(全6時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる ① 調べる ② まとめる・広げる	1 望月の歌と寝殿造の絵図について話し合い、藤原道長を中心とする貴族の社会について学習問題を設定する。 藤原氏は、どうしてこのような権力をもつことができたのだろうか。また、貴族はどんなくらしをしていたのだろうか。	藤原道長は、この世を全て思いどおりになると思うくらい力があつたのだな。 貴族は大きい屋敷に住んでいたのだな。屋敷の中で、何かしているぞ。	㊦ 望月の歌 ㊦ 藤原道長の肖像図 ○ 藤原道長が権力をもっていた理由について問題意識をもたせるために、望月の歌を詠んだ道長の気持ちを想像させ、その気持ちに対する感想を話し合わせる。
	2 学習問題について予想をし、調べる内容や方法について話し合う。 [調べる内容] ○藤原氏の政治 ○貴族のくらし ○当時の文化 [調べる方法] ○教科書 ○資料集 ○文献 ○年表	藤原氏は、なぜ、大きな権力をもっていたのかな。 貴族は、どのようなくらしをしていたのかな。 天皇を倒したか、信頼されていなかったか、いかな。 天皇に信頼されていなかったか、いかな。 贅沢なくらしをしていなかったか、いかな。 おいしいものをたくさん食べていたのかな。	㊦ 貴族の屋敷の様子(想像図) ○ 貴族のくらしの様子について問題意識をもたせるために、大きさやつくり、貴族の様子に着目させ、調べてみたいことを話し合わせる。
	3 貴族中心の政治やくらし、文化について追究する。 (1) 藤原氏が大きな権力をもつ理由について調べ、話し合う。 藤原氏が大きな権力をもつ理由 ・天皇家と親戚関係 ・他家の追放 ↓ 政治の実権をにぎる ↓ 高位高官の独占	藤原道長は、自分の娘を天皇の妃にしたのだな。 次の天皇の祖父になることをねらっていたのだな。 他家を倒したり、天皇と親戚になったりすることで、政治の実権を握ることができたのだな。	㊦ 藤原氏の系図 ㊦ 藤原氏が高い位についた割合 ○ 藤原氏が勢力を拡大した理由を、天皇と藤原氏の系図と関連付けて考えさせ、天皇家と親戚関係を築き、政治の実権を握ったこととらえられるようにする。
	(2) 貴族のくらしの様子について調べ、話し合う。 貴族のくらしの様子 【衣・食・住】 ○十二単・束帯 ○寝殿造 ○豪華な食事 【一日の様子】 ○年中行事 ○遊び ○占い ↓ 華やかで豪華なくらし ↓ 現代に受け継がれる	現代とは違う、屋敷の造りをしてるな。 庶民と比べて、豪華な食事をしてるな。 季節に応じた行事を行なっているのだな。 麗暮や双六、蹴鞠、乗馬などをしてるな。 貴族は、豪華で華やかなくらしをしてたのだな。 この頃から、現代にも残る遊びや年中行事があるのだな。	㊦ 宮廷の年中行事 ㊦ 年中行事絵巻 ㊦ 現代に残る年中行事 ○ 華やかなくらしをしていた貴族のくらしの特色をとらえさせるために、絵図や写真を基に、庶民のくらしと比較させながら考えさせる。その際、自分のくらしとのつながりに気付かせるようにする。
	(3) 当時の文化について調べ、話し合う。 当時の文化 大陸の影響を受けた仏教中心の文化 ↓ 華やかな貴族のくらし ○かな文字の誕生→優れた文学作品 ○寝殿造→平等院鳳凰堂 ○大和絵 ↓ 日本風の文化が生まれる	貴族のくらしについて、もっと詳しく調べてみたいな。 この時代にひらがなやカタカナが誕生したのだな。 国宝である平等院鳳凰堂も寝殿造が用いられているのだな。 この時代にひらがなやカタカナが誕生したのだな。	㊦ かな文字と漢字(表) ㊦ 平等院鳳凰堂(写真) ○ 貴族を中心に独自の日本風の文化が発達したことをとらえさせるために、かな文字の誕生と文学作品の関係や、国宝にも指定されている平等院鳳凰堂のつくりを基に、文化の特色について考えさせる。
	5 学習問題についてまとめ、追究したことを基に、歴史新聞を作成する。 藤原道長が権力を大きくできた理由は、娘をきさきにするこで天皇とのつながりを強めたから。貴族の華やかなくらしの中で、日本風の文化が栄えた。	源氏物語や枕草子を読んだら、この時代の文化遺産には、他に何があるのかな。 貴族の政治やくらし、この時代に文化について分かったな。	○ 学習したことを整理、再構成させるために、貴族の政治やくらし、「日本風の文化について、分かったことと考えたことを歴史新聞として絵図や文で絵図や文でまとめさせる。
6 さらに追究したい年中行事や重要文化財、文学作品などについて個人追究する。	現代までのこの行事や伝統を大切にしていきたいな。 貴族の政治やくらしは、この後どうなっていくのかな。	○ 日本の伝統や文化に対する関心を高めさせるために、興味のある年中行事や重要文化財、文学作品などについて個人追究させる場を設ける。	

5 本 時 (3 / 6)

(1) 目 標

貴族の暮らしについて、庶民の暮らしと比較しながら追究する活動を通して、貴族が庶民の支えで贅沢で華やかな暮らしをしていたことをとらえることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、衣、食、住の観点から、貴族と庶民の暮らしを比較させながら、貴族の暮らしの特色について話し合わせる。また、貴族の暮らしは庶民の支えによるものであったことをとらえさせるために、庶民に課せられた税と関連付けて、貴族が贅沢で華やかな暮らしを行うことができた理由を話し合わせる。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の 追 究 問 題 の 具 体 化	1 本時における追究問題を具体化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">貴族は、どのような暮らしをしていたのだろうか。</div>	(分) ↑ 8	㊦ 表（貴族の一日の行動） ○ 「貴族はどのような暮らしをしていたのだろうか。」という問題意識をもたせるために、貴族の一日の行動表を提示し、感想を交流していく中で、貴族が午前中で仕事を終えることに着目させ、その後の時間は何をしていたのかを話し合わせる。
	2 学習の進め方について話し合う。 ○追究方法：一人調べ→全体での話し合い ○活用する資料：教科書、資料集、個人の資料	↓	○ 見通しをもって問題を追究させるようにするために、追究方法を確認し、活用できる資料について話し合わせる。
計 追 究	3 貴族の暮らしについて一人調べをする。	↓	㊦ 写真（束帯と十二単、庶民の服装）
	4 一人調べをしたことを基に、貴族の暮らしについて話し合う。		㊦ 写真（貴族と庶民の食事を再現したもの）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <div style="text-align: center;">庶民の暮らし</div> <div style="text-align: center;">・麻の服 ・質素な食事 ・平地式の住居</div> <div style="text-align: center;">⇕①⇕</div> <div style="text-align: center;">貴族の暮らし</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食 事 ・数種類の品 ・1日2食</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">衣 服 ・束帯 ・十二単</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">住 居 ・四方120m ・仕切りなし</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">遊び(教養) ・琴 ・琵琶 ・笛 ・囲碁 ・蹴鞠 ・乗馬</div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">年中行事 ・七夕 ・曲水宴 ・衣更 ・月見 現代まで受け継がれている行事がある ②</div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">豪華で優雅な暮らし</div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">庶民の税</div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">庶民の支えがあったからできた</div> </div>		㊦ 表（平安時代の年中行事の一覧） ㊦ 絵図（年中行事絵巻の一部） ○ 貴族がどのような遊びや年中行事を行っていたかをとらえさせるために、年中行事絵巻から読み取れることを話し合う。その際、平安時代の年中行事の中には、現代の暮らしの中にも残るものがあることをとらえさせるために、平安時代と現在の年中行事を比較させながら、共通点を話し合わせる(②)。
5 本時の学習についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">貴族は、庶民の支えで、はなやかに贅沢な暮らしをしていた。</div>	↓	㊦ 数値（貴族の収入を現在の金額に換算した額） ○ 貴族の暮らしの背景には庶民の支えがあったことをとらえさせるために、「なぜ、貴族は、このような暮らしを行なうことができたのか。」と問い、その理由を話し合わせる。その際、貴族の収入を現在の金額に換算した数値を提示し、既習の律令で定められた庶民の税と関連付けて考えさせる(③)。	
追 究 問 題 の 究 明	6 本時の学習について振り返り、次時の学習について話し合う。	↓	○ 学び合いを基に追究問題に対する自分の考えを再構成させるために、本時のまとめを、個人でノートに記述させてから、全体で話し合わせるようにする。
	まとめ	7	